

弦が揺れると、僕は季節の風になる

* 文 佐田大陸 text by Tairik Sada *



ルッジェーロ・リッチ氏と

「こんな自分がレッスンを受けて良いのだろうか、ボロクソ言われて終わるのだろうか」そんなことを考えながら人のレッスンを聴講。

恩人との邂逅
部屋を片付けていたら、2人の男性が写った1枚の写真が出てきました。

高校3年生の夏、17歳の時にオーストリアにあるザルツブルグにヴァイオリンを習いに行きました。当時は、受験やコンクールにことごとく落選し、「敗北」の二文字をこれでもかど心に刻みつけられ、ヴァイオリンを辞めようか迷っていた時期でした。練習すればするほど酷くなっていくような気がして、負の螺旋階段を降りている感覚がありました。

習いに行ったのは、ルッジェーロ・リッチという巨匠のヴァイオリニスト。クラシックのヴァイオリニストの黄金の時代（と僕は思っている）を生きたレジェンドに直接教えてもらえる、とワクワクしながら行きました（隣の部屋では、イーゴリ・オイストラフが教えていました）。

当時の僕の間接からすると、みんな恐ろしいほど上手い。自分の前にレッスンを受けていたのは、「入学した生徒は全員特待生」世界最難関の音楽学校として知られている「カーティス音楽院」の生徒さんでした。上手すぎる。リッチ先生も「どうしたらそんなにエネルギー溢れた演奏ができるんだい」とベタ褒め。

そんな後に、いよいよ自分の番がやってきました。当時の録音機「MD」を回して楽器ケースを開く。難曲パガニーニと、バッハを必死に弾く。僕はバッハを弾き終わると、リッチ先生は小さく丸まった身体でじっと僕を見つめて「才能ある。技巧的には足りないところが多けれど、これから10年間必死にやったら、もしかしたら何とかなるかもね」みたいなことをおっしゃいました。今思えば、あまりに未熟な演奏だったと思いますが、もしかしら僕らの悩みを察知した、リッチ先生なりのエールだったのかもしれない。あれから20年以上経ちますが、まだ弾き続けております。

人生には色々な転機がありますが、自分を変えてくれるのはいつも「人」だと感じます。

言葉一つで簡単に人は潰れるし、心を救うこともできる。

人の可能性は無限大です。自分も

リッチ先生のように、他人の将来の芽を信じる人でありたいと思います。

- ※1 ルッジェーロリッチ
世界初、パガニーニの「24のカプリス」の全曲演奏のレコードをリリース。パガニーニのスペシャリストと賞賛されたヴァイオリニストの巨匠。
- ※2 イーゴリ・オイストラフ
誰もが憧れる伝説のヴァイオリニスト。ダヴィッド・オイストラフの息子。イーゴリもまた、ヴァイオリン界を代表する巨匠。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK 発見」毎週月曜 15:00 台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

